

供血者から始まる遡及調査実施状況

平成22年9月30日現在

対象期間	平成21年4月1日 ~ 平成22年3月31日			平成22年4月1日 ~ 平成22年9月30日		
	HBV	HCV	HIV	HBV	HCV	HIV
(1) 遡及調査実施内容						
① 調査の対象とした献血件数(個別NAT実施件数)						
1) 総数	1,806			866		
2) 個別件数	1,688	69	49	805	43	18
② 上記①のうち、調査の対象とした輸血用血液製剤の本数						
1) 総数	2,014			961		
2) 個別本数	1,877	84	53	899	41	21
③ 上記②のうち、医療機関に情報提供を行った本数						
1) 総数	2,014			754		
2) 個別本数	1,877	84	53	710	28	16
(2) 個別NAT関連情報						
① 遡及調査実施対象[(1)①]のうち、個別NATの結果が陽性となった献血件数						
1) 総数	144			52		
2) 個別件数	144	0	0	52	0	0
② 上記①のうち、医療機関へ供給された製剤に関する報告件数						
1) 使用された本数	140	0	0	51	0	0
2) 医療機関調査中	0	0	0	0	0	0
3) 院内で廃棄	6	0	0	4	0	0
4) 不明	6	0	0	3	0	0
計	152	0	0	58	0	0
③ 上記②のうち、受血者情報が判明した件数						
1) 陽転事例	1	0	0	3	0	0
2) 非陽転事例	55	0	0	13	0	0
3) 死亡	55	0	0	25	0	0
4) 退院・未検査	19	0	0	8	0	0
5) 陽性だが輸血前不明	10	0	0	2	0	0
計	140	0	0	51	0	0
④ 上記③のうち、医薬品副作用感染症報告を行った件数						
報告件数	1	0	0	3	0	0

*血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン(平成20年12月26日一部改正)に基づく遡及調査対応基準を適用。

HBV : HBs抗原CLEIA法確認試験(中和試験)又は個別NAT陽性の場合は遡及調査を行う。

: HBc抗体CLEIA法陽転の場合は遡及調査を行う。

HCV : HCV抗体CLEIA法陽転の血液及び前回の血液について個別NATを実施し、いずれかが陽性の場合は遡及調査を行う。

HIV : HIV抗体CLEIA法で陽転し、確認試験(WB法)又は個別NAT陽性の場合は遡及調査を行う。

共通 : スクリーニングNAT陽転の場合は遡及調査を行う。

平成22年度感染症報告事例のまとめについて

- 1 平成22年2月26日報告分から22年10月25日までに報告（新規及び追加）があった感染症報告（疑似事例を含む。供血者からの情報により開始した遡及調査によるものを除く。）は、輸血用血液製剤61件である。輸血用血液製剤の内訳は、
 - (1) B型肝炎報告事例： 23
 - (2) C型肝炎報告事例： 13
 - (3) HIV感染報告例： 0
 - (4) その他の感染症報告例： 25
- 2 B型肝炎報告事例
 - (1) 輸血前後に感染症検査でHBs抗原（又はHBV-DNA）等が陽転した事例は23例（輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は2例）。
 - (2) 血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性の事例は9例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例（劇症化例含む。）である。
- 3 C型肝炎報告事例
 - (1) 輸血前後に抗体検査（又はHCV-RNA）等が陽転した事例は13例（輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は3例）。
 - (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。
- 4 HIV報告事例
 - (1) 輸血前後に抗体検査等が陽転した事例は0例。
 - (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。
- 5 その他感染症報告事例
 - (1) B型肝炎及びC型肝炎以外の肝障害報告事例は1例。
 - (2) 細菌等感染報告事例において、血液製剤を提供した献血者の保管検体の無菌試験陽性事例は0例。輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

献血件数及びH I V抗体・核酸増幅検査陽性件数

年	献 血 件 数 (検 査 実 施 数)	陽性件数 () 内女性 [] 内核酸 増幅検査 のみ陽性	10万件 当たり
	件	件	件
1987年 (昭和62年)	8,217,340	11(1)	0.134
1988年 (昭和63年)	7,974,147	9(1)	0.113
1989年 (平成元年)	7,876,682	13(1)	0.165
1990年 (平成2年)	7,743,475	26(6)	0.336
1991年 (平成3年)	8,071,937	29(4)	0.359
1992年 (平成4年)	7,710,693	34(7)	0.441
1993年 (平成5年)	7,205,514	35(5)	0.486
1994年 (平成6年)	6,610,484	36(5)	0.545
1995年 (平成7年)	6,298,706	46(9)	0.730
1996年 (平成8年)	6,039,394	46(5)	0.762
1997年 (平成9年)	5,998,760	54(5)	0.900
1998年 (平成10年)	6,137,378	56(4)	0.912
1999年 (平成11年)	6,139,205	64(6)	1.042
2000年 (平成12年)	5,877,971	67(4) [3]	1.140
2001年 (平成13年)	5,774,269	79(1) [1]	1.368
2002年 (平成14年)	5,784,101	82(5) [2]	1.418
2003年 (平成15年)	5,621,096	87(8) [2]	1.548
2004年 (平成16年)	5,473,140	92(4) [2]	1.681
2005年 (平成17年)	5,320,602	78(3) [2]	1.466
2006年 (平成18年)	4,987,857	87(5) [1]	1.744
2007年 (平成19年)	4,939,550	102(3) [6]	2.065
2008年 (平成20年)	5,077,238	107(3) [0]	2.107
2009年 (平成21年)	5,287,101	102(6) [2]	1.929
2010年 (平成22年) (1～9月)	3,999,981 (速報値)	61(3) [1]	1.525

(注1)・昭和61年は、年中途から実施したことなどから、3,146,940件、うち、陽性件数11件(女性0)となっている。

(注2)・抗体検査及び核酸増幅検査陽性の血液は廃棄され、製剤には使用されない。
・核酸増幅検査については、平成11年10月より全国的に実施している。

(注3)・平成22年は、1月～9月の速報値で集計している。